

大学教育の参照基準の目指す人材育成

北原和夫

東京理科大学大学院科学教育研究科

日本学術会議 大学教育の分野別質保証委員会

科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター

日本学術会議では、文科省からの審議依頼に対する「回答」*において提案された「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」の策定作業を2010年から行っている。すでに、2012年には、経営学、言語・文学、法学の各分野、2013年度には、家政学、機械工学、数理科学、生物学の各分野の参照基準が策定された。各分野の学びのコアを明示することによって、大学の多様性を超えて、各分野の学びのコアについて共通理解が確認される。その共通理解のもとに、各大学で教育課程編成を行うことを促すものである。さらに、参照基準によって、各分野の学びのコアが、他分野、初等中等教育、職業社会に対しても可視化されることになる。そのことによって、分野、教育段階、職種の違いを超えて、むしろ相違を活かして、より良い世界の構築のために若者たちが協働できることになる。参照基準の目指す人材像は、まさに「協働する知性」の担い手である。

* 「回答 大学教育の分野別質保証の在り方について」日本学術会議（平成22年7月22日）<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-k100-1.pdf>